

舞鶴要港部

1102





實施經過ノ概要竝意見

一 三月一日午前九時十五分開始同十時五十分終了當時

天候概不曇ニシテ空電比較的微弱ナリモ時々金澤

陸軍無線電信所ノ混信アリ

二 本部隊通信ノ送信ハ無線電信所及平戸於テ感アリシ

モ平戸ハ低感度ノ爲符號ノ判讀困難ニテ受信不能

驅逐隊ニ於テハ全然感ナシ

電信所ハ七年式受信機二式増音機平戸ハ七年式受

信機、驅逐隊ハ二年式受信機電球檢波器ヲ用テ

三 平戸及第十八驅逐隊ニ於テ受信成績不良ナリシ艦ノ

現状其他當務者ノ缺員等ニ基ツキテ大ナルキモ不

衰減電波ノ受信對テハ尚研究ノ餘地多クト認ム

四 第二隊補以下ノ艦船ニ於ケル電信員ノ現在數ハ機具ノ



手入整備ニ尚充分ナラサル現状ナリ從テ實用送受信  
ニ對スル訓練ノ機ヲ逸スルニト多クナリ技倆低下ノ虞ナシ  
トセス故ニ之等艦船電信員ノ訓練ニハ特ニ意ヲ用スルシ  
要ス

(終)



備考	電信所	十八駝	平戸		電信所	十八駝	平戸		電信所	十八駝	平戸
	鶴		舞		鶴		舞		鶴		舞
	日向	伊勢	日向	第五次	陸奥	陸奥	長門	第四次	筑摩	筑摩	大井
	沖尻	田	三		沖尻	田	三		筑摩	筑摩	三田
	三	三	三	(大花)	三	三	三	(廣孤)	三	三	三
	乙	乙	乙		乙	乙	乙		乙	乙	乙
	アリ	アリ	アリ	(平吉)	アリ	アリ	アリ	(信)	アリ	アリ	アリ
	三	四	四		五	不	不		四	五	五
	八	九	九	(送)	九	〇	〇	(送)	九	八	九
	信	受	合		信	受	合		信	受	合



實施經過ノ概要並意見

一、二月二十日午後六時十五分開始同日午後七時四十分終了天候概シ曇空電雨乃至乙時々金澤陸軍無線電信所ノ混信ナリ就中第二次受信中ノ混信ハ波長三二一附近ノ衰減電波ニシテ感高ク著シク受信ノ妨害トナレリ

二、輕巡以上ノ軍艦ノ廣島灣行動中M式四號送信機又ハ四年式三二一キロ送信機ヲ以テスル送信ハ舞鶴港内ニ於ケル一等驅逐艦以上ノ艦船ニ於テ七年式受信機ヲ用フレハ受信困難トラス

三、本部隊通信ニ於ケル受信艦中自己分擔波長カ分離出來サルノ故ヲ以テ獨斷他ノ波長ヲ受信シタラスノアルニ聯合受信ニ際シ極力指定波長



ヲ探波受信スル様訓練スルヲ要ス

四

紙

1110

第三回第二種部隊通信(第一艦隊ノ一部通信)實施經過概要意見

舞鶴鎮守府

三月一日午後七時四十分開始同日午後八時四十五分終了  
天候曇空電比較的微弱ナリシモ送信源ニ對スル受  
信感度一乃至ニニテ部外ノ混信ヨリ分離シ得ス遂  
ニ符號ヲ聽取シ得ナリキ蓋シ當時ノ通信距離ハ受  
信部隊ノ通信能力ニ比シ稍過大ナリシモノト認ム

(終)







電信所受信状態(七年式受信機一ニ式増音機ヲ用フ)  
 第一次金剛ノ送信ハ音電良好ナモ状態不安定。第  
 二次名取ノ送信ハ音電普通ニテ状態稍不安定。  
 第三次金剛ノ送信ハ混信ノ爲著ク受信ヲ妨害ス  
 ル。第四次第一駆逐艦ノ送信ハ送信波長附近ニ感  
 一乃至二ノ不衰减電波ニテ探知シ得レモ空電ノ爲受  
 信シ得ズ平戸ニ於テ受信状態(七年式受信機ヲ  
 使用ス)混信空電ノ爲第三次比敵ノ送信ヲ一部受  
 信シ得ル。他ニ感不明。第十八駆逐隊ニ於テ受信  
 状態(二年式受信機ニ電球換波機ヲ用フ)磁風ニテ  
 第二次鬼怒ノ送信ヲ受信シ得ル。他ニ感ナシ。  
 金剛型装備(四式四號)送信機ノ横領質ニ於ケル  
 送信ハ強度、混信ナキ限リ電信所ニ於テ受信困

雜ヤラスと雖七年式二號送信機ノ送信ハ前者ニ比  
シ稍受信容易ナリ  
平戸及第十八駆逐隊ニ於ケル受信成績不良ナリレハ  
當時ノ艦現狀ニ因リト大ニ之ニ尚向上ノ餘地アリト  
信ス

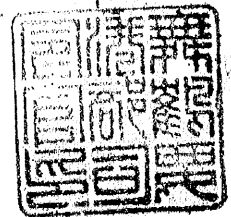
終

舞要機密第八號二五

五月二十一日

大正十二年五月二十六日

舞鶴要港部司令官齋藤半六



教育局

大正十二年第五回第二種部隊通信受信關講評

並訓示

舞鶴海軍無線電信所カ當日受信機ニ故障ヲ

生シタル際應急受信ニ努メタルハ可ナルモ故

障ニ對スル事前ノ準備足ラサリシハ遺憾

ナリ

一、小風電信室外喧騒ノ為受信ヲ妨害シタルハ

注意ヲ要ス

三、第十七驅逐隊ノ隊内通信不達ノモノアリ

レハ不可ナリ  
之ヲ要スルニ今回ノ部隊通信ハ一般ニ成  
績甚シク不良ナリ之レハ強烈ナル空電  
ニ妨害セラレシニ基因スト雖モ事前ノ準備  
十分ナラサルト隊内通信ノ不達茲各員  
協力ノ是ラサルトニ原因スルモノ大ナルヲ見  
ル各員此不成績ニ鑑ミ益々奮勵協力一致  
以テ通信能力ノ増進ヲ圖ランコトヲ望ム

(終)



第五回第二種部隊通信舞鶴要港部部隊

實施經過ノ概要

一、五月十五日午前九時四十五分開始同日午後二時四十分終了天候曇、空電乙時時遠ク雷鳴聞エ甚之ク受信ヲ困難ナラシメタリ

二、第十七駆逐隊(山風缺)ハ港内浮標ニ併列繫留シアリタル關係上中間ニアリタル樁ハ他艦ノ干渉作用ヲ受ケ受信ヲ困難ナラシメタリ

三、舞鶴無線電信所ハ當日午前八時頃七年式受信機用檢波器故障(分岐蓄電器短絡)ヲ生シタルヲ發見直ニ應急用増音器發信縮線ヲ使用シテ受信ニ努ム然レトモ其ノ接觸導線接觸不良ノ為受信困難ナリキ

# 意見

- 四、第三次火花式送信ニ對シテハ各艦共感ナシ
- 五、第四次送信所交島電信所削除ニ依リ信號ヲ以テ分担波長ヲ變更シタルニ司令艇逐艦海風之ヲ受信シ乍ラ之ヲ中継スルノ途ニ出テス為ニ楯楯ニ信號達セシテ兩艦ハ遂ニ第四次通信ニ参加セス
- 一、第三次火花式送信ニ對シ各艦船所共ニ受信感度ナカリシハ地形ノ影響ト空電ノ妨害ニ依ルモノト認ム昨年十月横須賀電信所故障ノ際山城之ニ代リタルモ其當時ニ於テモ晝間ハ同艦ノ感度微弱ニシテ受信ニ困難ヲ感シタル例アリ
- 一、艇逐隊併列繫留中ノ聯合受信ニ於ケル各艦ノ干渉作用ヲ檢スル為今回楯楯同一波長註五

百ノ波長差アル波長ヲ分担セシメタルモ諸種ノ状況ニ  
ヨリ其成果ヲ得ル能ハサリキ然レトモ大体ニ於  
テ各艦ノ分担波長差ヲ五百米以上トシ受信波  
長目盛リヲ正確ニスルトキハ隣接艦ノ干渉ヲ減  
シ受信困難ナラサルヘシ

(終)

第五回第二種部隊通信(横須賀) 受信要表

舞鶴西女港部

第 二 次	榎	櫛	山風	海風	吾妻	平戸	電信所	艦所名	受信
			鶴			舞		概位	全上
	全	宗谷電信所	父島電信所	横須賀電信所	父島電信所	東京電信所	横須賀電信所	艦所名	送信
	右全右	宗谷	父島	横須賀	父島	船橋	横須賀	概位	全上
			四分	四分				所要時間	受信所要時間
								送信時間	受信所要時間
								送信時間	受信所要時間
	全右	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	波長	受信電波
	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	電	受信電波
	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	状況	受信電波
ナレ	ナレ	ニ	三	ニ	ナレ	ナレ	受信電波	受信電波	
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	受信電波	受信電波	
			三五	〇	〇	〇	受信電波	受信電波	
			聯合受信				受信機故障		記事



山風	海風	吾妻	平戸	電信所	榎	橋	山風	海風	吾妻	平戸	電信所
舞					舞						
阿	阿	磐	八	山	磐	鳳	八	全	東京電信所	磐	八
蘇	蘇	手	雲	城	手	翔	雲	右	船橋	手	雲
全右	全右	全右	全右	橋	全右	全右	橋	全右	五秘	全右	橋
				續				四分			七分
				續							
一〇〇	一〇〇	三〇〇	八〇〇		三〇〇	三〇〇	四〇〇	全右	六〇〇	三〇〇	四〇〇
乙	乙	乙	乙		乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙
ナレ	ナレ	アリ	ナレ		ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ
ナレ	ナレ	ナレ	ナレ		ナレ	ナレ	ナレ	四五	四	ナレ	三
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
								九八	一〇〇		八九
聯合電信					聯合電信						

第三次

備考	山風	海風	吾妻	平戸	電信所	榎	楯	
	鶴		舞					全
平戸吾妻女八陸岸ニ第十七駆逐隊(山風鉄)ハ 港内浮標ニ繫留山風八栗田湾ニ出動中	東京電信所	横須賀電信所	東京電信所	横須賀電信所	東京電信所	全	日	
	船橋	横須賀	船橋	横須賀	船橋	右	進	
	五分	五分	五分	五分	五分	全	横須賀	
	四〇〇	二〇〇	四〇〇	二〇〇	四〇〇			
	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	
	ナレ	ナレ	アリ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	
	四〇	三	四	三	五	ナレ	ナレ	
						〇	〇	
五	四七	〇	七一	一〇				
	聯合電信							

第四次



電信所	海風	山風	榎	榎	榎	平戸	電信所	海風	榎	榎	平戸
	美	保	關			舞鶴		鳥	取	沖	舞鶴
阿蘇	東京電信所	横須賀電信所	宗谷電信所			横須賀電信所	宗谷電信所	横須賀電信所	東京電信所	横須賀電信所	東京電信所
第											
四	五分					五分					五分
次											
六〇	四〇	六〇	五〇	四〇	五〇	六〇	六〇	六〇	五〇	六〇	六〇
乙	丙	丙	丙	丙	乙	乙	乙	丙	丙	丙	丙
アリ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	アリ	アリ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ
三四	四五	二二	ナレ	四	三	三四	三四	二二	ナレ	ナレ	四
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
九九	一〇	〇	〇	九九	九五	〇		〇	〇	〇	九九
誤			混								
支			信								

橋	榎	山風	海風	平産
	關	保	美	舞鶴
鳳翔	阿蘇	榛名	鳳翔	阿蘇
全右	全右	全右	横須賀	
				四分
三〇〇	六〇〇	五〇〇	三〇〇	六〇〇
丙	丙	丙	丙	乙
アリ	ナレ	ナレ	アリ	アリ
ナレ	ナレ	ナレ	丁ニ	四
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
				八五
			混金澤 信アリ	



第六回第二種部隊通信舞鶴要港部部隊

實施經過ノ概要

一、舞鶴要港部日令第三三號ニ依リ六月二十五日午前八時四十分開始同日午後二時五十分終了天候曇時時微雨アリ

二、第十七駆逐隊ハ當日第十師團船舶輸送演習ニ協力シ速力二十節ニテ舞鶴ヨリ美保關ニ向ケ航行中ナリシヨリ艦ノ震動缶室送風機ノ音響茲諸教練ノ爲相當喧噪ニシテ遠距離受信ヲ困難ナラシメタリ

三、第一次通信ニ於テ山風擾ハ分擔波長ヲ誤リ中途變更第四通信ニ於テ舞鶴電信所ハ分擔波長一五〇〇ヲ一八〇〇ニ誤リ受信セリ

①

一、意見

又舞鶴電信所ハ、第三次宗谷電信所送信  
波長ヲ約三〇〇短ク測定シ、平戸ハ波長差  
三〇〇ノ衰減電波ノ分離受信ニ困難セリ

駈逐隊ニモ大波長受信可能ノ受信機並  
測波器ヲ供給スルヲ要ス

(終)



楯	榎	海風
湾海峡		
名	長	鬼
取	良	怒
府		
四	三	四
丙	丙	乙
ナ	ナ	ナ
ナ	ナ	ナ
。	。	。

第七回第三種部隊通信舞鶴要港部部隊

實施經過ノ概要

- 一 舞鶴要港部日合隊四九號ニ依リ七月二十日午後六時五分開始今日午後八時終了天候晴空電乙一丙
- 二 平戸電信室改装工事進捗ノ都合ニ依リ参加ヲ中止ス
- 三 第七回部隊ハ夜間應用教練發射ノ爲ニ狹海灣ニ出動中ニテ夜間諸訓練ノ爲ニ艦内相當喧噪且ツ高速力ニ依ル震動アリ
- 四 第一次受信ニ於テ榎楢ハ長門ノ感三乃至四アリタルモ分担波長對スル感度更ニナカリキ
- 五 第二次受信ニ於テ山風ハ分担波長ノ感アリタルモ榎楢ハ全一波長ノ感ナク又各回部隊艦ニ於テハ鬼怒送信ノ比較的強ク感ニタルモ全波長ノ分担艦タル海風於



テ全ク之ヲ受信シ得サリキ

六舞鶴電信所ニ於テハ波長差ニ〇ノ電球式電波並波長  
差四〇〇ノ電弧式電波ニ對スル分離受信ハ同調尖銳  
ニシテ容易ナリキ

### 意見

一實施經過ヨリ推スニ駆逐隊ニ於ケル電信負ノ不衰减  
電波受信ノ練度ハ不充分ナリト認ム

ニ不衰减送信機採用以來漸次送信波長差減少  
シツツアルノ状勢ナルカ波長ノ制定ハ送信機受信機  
及測波器ノ固有誤差調整誤差及人差ヲ誤差學的  
ニ研究ノ上決定スルヲ要ス單ニ多數ノ異波長ヲ便ト  
スル上ヨリ波長ヲ接近シ來ルトキハ衰减電波ニ於ケル昔  
日ノ苦腦ヲ再ニ嘗ムルニ至ルヘシ

(終)